

### 3. 人のつながりを創る ～地域を支える人と協働の環づくり～

事例 01：新しい公共を担う市民研究員育成事業 （NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房 × 宇都宮市）	62
事例 02：まち変“ふらっと”フォーム事業 （NPO 法人かぬま市民活動サポーターズ × 鹿沼市）	64
事例 03：地域リーダー育成事業 （NPO 法人おおきな木 × 日光市）	66
事例 04：小山っ子元気づくり事業 （おやまフットボールクラブ × 小山市）	68
事例 05：もうひとつの楽校づくり事業 （野木町未来プロジェクト実行委員会 × 野木町）	70
事例 06：高校生アイディア会議 （NPO 法人かぬま市民活動サポーターズ × 鹿沼市）	72
事例 07：男女の出会いの場創設事業 （やいた未来クラブ × 矢板市）	74
事例 08：e（い～）出会いづくり in SAKURA （NPO 法人氏家まちづくり Active × さくら市）	76
事例 09：壬カ UP 協働のまちづくり推進事業 （夢壬隊 × 壬生町）	78
事例 10：協働のまちづくり普及啓発事業 （那須塩原市協働のまちづくり推進協議会 × 那須塩原市）	80
事例 11：ボランティア活動促進事業 （野木町ボランティア支援センター利用者協議会 × 野木町）	82

# 新しい公共を担う市民研究員育成事業

## NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 × 宇都宮市



研究協議の様子

### 事業目的

社会的課題が複雑化する中、市民主体のまちづくりの重要性がますます増大していますが、現状では担い手の高齢化や後継者不足とともに、まちづくりへの関心の希薄化が大きな課題となっています。このため、“地域の課題を見出し、その解決について主体的に取り組む市民（＝市民研究員）”の募集・育成を行うこととしました。

### 実施までの経緯

市民研究員事業に取り組むにあたっては、先駆的な取組を行っている金沢市を視察する等、事前に参考となる情報集めをしました。研究テーマや事業スキーム、最終的に目指すところなど、研究員の意見・考えを聞く前に、事務局としての検討を重ねました。

### ■実施期間

平成23年11月～平成25年3月

### ■事業費：1,175千円

### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

NPO法人宇都宮まちづくり市民工房、とちぎ協働デザインリーグ、宇都宮市（みんなでまちづくり課）

研究員を募集する際には、どのような人をどれくらいどのような要件で募集するかしっかりと議論を重ねました。研究員の養成カリキュラムを作り上げるにあたっては、視察先である金沢市の例を参考にしました。

また、本研究のキックオフ及び成果発表についてのイメージをある程度固めました。

### 具体的な事業内容

平成23年11月にプラットフォームを設置し、以後10回以上の事前協議をもとに、研究員の公募方法やシンポジウムの開催方法等、事業の具体的な進め方について打合せを行いました。また、研究員が選任された後は、研究員とともに、テーマについての意見交換をし、地域コミュニティについて、各人の思いや認識を深めたいうで、調査方法や調査地域の選定等、定期的に協議を行いました。

平成24年度は、「地域コミュニティにおける絆の再生」～これからの近所付き合いを考える～というテーマについて、アンケート班とインタビュー班に分かれての班別研究会や、進捗確認及び研究の共有をする合同研究会を積み重ねていきました。

アンケート調査の回収は400件、インタビュー調査は市内3地区で実施しました。そこから見えてきたことは、①近所づきあいをしたくないわけではない。②地域とつながるきっかけについて、世代により違いがある。③リーダーの存在が、コミュニティの絆づくりに大きく影響している。④ご近所の範囲としては、向こう三軒両隣や自治会町内会をイメージしている人が多く、今後その範囲をひろげていきたいと感じている。⑤近所付き合いで大事にしていることは、あいさつとマナー（常識的な行動）、などです。

幅広い世代の市民が1つのテーマについてじっくり話し合うことの大切さを実感し、また、発表会でも多くの方が関心を寄せてくれたことから、本研究の有用性を確認することができました。25年度も意欲をもって継続できるよう検討していきます。

## 事業を進める上での工夫

県が主催した地域コミュニティのシンポジウムに参加するなど、関係機関が開催する講座等をカリキュラムに組み入れました。参考

文献の情報を共有し、知識を深めました。ネット上での意見交換をはじめ、様々な技術を駆使して情報の共有化や作業の分担化を図り、効果的に調査研究を進めました。

## 事業の成果と活用

20代から70代の市民が、立場の違いや世代間の意識の違いを互いに認めつつ、一つのテーマについて9ヵ月にわたり粘り強く調査研究をしてきました。限られた時間の中で研究員が自由闊達な研究協議を楽しみつつ、丁寧に報告をまとめ、発表会において公表できたことは、研究員をはじめ事業に関わった方々にとっても、多くの市民に市民研究員事業を知ってもらう意味でも大きな成果でした。

発表会の参加者アンケートでは「今後の自治会活動や近所付き合いをしていく上で大いに参考になった」といった肯定的な意見がほとんどであり、市民の視点での調査研究が高い評価を得たものにとらえています。

さらに、25年度以降の活動を希望する研究員も多く、“地域の課題を見出しその解決について主体的に取り組む市民”を増やしていく上での波及効果も十分あったといえます。

今後も、本事業を活発にしていくとともに、研究成果を市の施策に反映させるための仕組みづくりなどを検討し、地域が生きいきする「住民自治」を目指して歩んでいきます。

■問合せ先：宇都宮市みんなでまちづくり課

・住所：〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1-1-5

・電話：028-632-2287

# まち変“ふらっと”フォーム事業

NPO法人かぬま市民活動サポーターズ × 鹿沼市



「まち変」の様子

## 事業目的

市民・企業・行政の協働によるアイデア会議を行いながら事業の協力者を募り、全国の事例を研究するサミットを開催しました。「市民提案制度」「まちづくりファンド」等の新たな仕組みづくりと人材育成を行い、市民自治と協働のまちづくりを推進することを目的としました。

## 実施までの経緯

地域の様々な課題について、その解決策を見い出せずそのまま放置されてしまっていることが多かったことから、課題を発掘し、解決策を自由に語り合えるフリートークの場を設けることにしました。

## 具体的な事業内容

平成24年4月に施行された鹿沼市自治基

### ■実施期間

平成23年10月～平成25年3月

### ■事業費：1,328千円

### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

カフェ饗茶庵、鹿沼ヒーロー計画、NPO法人CCV、鹿沼相互信用金庫、WAKEISHI、鹿沼市自治基本条例を考える会、白石建築設計事務所、常陸屋呉服店、下野タイムス社、インテリア大長、鹿沼市観光物産協会、宇都宮大学、NPO法人かぬま市民活動サポーターズ、鹿沼市（市民活動支援課）

本条例の理念である、「市民自治と協働によるまちづくり」を推進するために、市民活動中間支援施設「かぬま市民活動広場ふらっと」の運営団体であるNPO法人かぬま市民活動サポーターズと鹿沼市がプラットフォームを設置し、市民のアイデア会議「まち変・まちアイ」等を開催しました。

### 1. 「かぬま全国まち変サミット」の開催

市外県外のまちづくり実践者8名を「まち変人」として招き、トークライブ形式で事例発表や意見交換を行いました。本サミットで発表された他地域の事例から、鹿沼における新たなアイデア事業のヒントが得られました。また、分科会や懇親会を通して、市内外の参加者同士の交流を図る機会ともなりました。

### 2. 新たな仕組みづくり

市民のアイデア会議「まち変・まちアイ」を全20回開催しました。自由な雑談の中で

アイデアを出し合ったことで、まちづくりの新たな活動や仕組みを考えることができる場となりました。

#### (1) 「まち変」:まちを変える人＝まち変人の懇談会

まちづくりのヒントにつながるよう、市内で地域づくり、まちづくりを行い活躍している「まち変人」をゲストとして迎え、活動報告や事例報告、意見交換を内容とするトークライブを全4回実施しました。

#### (2) 「まちアイ」:まちづくりアイデア会議

自由な参加による雑談形式のアイデア意見交換会として「まちアイ」を全8回実施しました。アイデアを掘り起こして「まちネタ」として企画書にまとめ、実行に向けての協議を行いました。

### 事業を進める上での工夫

自由に気楽に語り合える場の創設と平成24年11月開催の「全国まち変サミット」開催に向けアイデア会議を行いました。また、まちづくり実践者のお話を聞くことで意識を高められるよう数回ゲストトークを実施しました。まちづくりへの興味の有無に関わらず会議に参加できるよう、参加したくなる会議進行及び雰囲気作りを工夫しました。会議は、全員が意見を出せるようワークショップの形で進めました。

### 事業の成果と活用

「まち変・まちアイ」で提案された8事業のうち、他事業による実施を含めると、5事業が実施されました。その中でも特に「カヌマ大学」は、多様な人材により構成された組織による本格的な市民の自主活動団体として設立され、地域のコミュニティとネットワークづくり、人材発掘と活用の仕組みとしてモデル的事业となりました。また、「かぬま全国まち変サミット」等で地域間の交流が深まり、北関東を中心としたネットワーク作りにつながりました。さらには、平成25年3月3日に開催された「かぬま市民協働まつり」の際に実施した「まちづくりアイデア総選挙」では、様々なアイデアが提案され、実際の活動に結びつきそうなものもいくつかありました。同プラットフォームでは、今後もまちを変えていこうとしている人や実践している人の発掘をさらに進め、まちづくりに関して学びの場を設け、フリートークの中で出たアイデアや発想が具現化できるような仕組みを構築していきたいと思います。また、市民のアイデア提案の仕組みとして、他の事業活動（高校生アイデア会議等）やNPO団体などと連携をしながら継続的に実施して行く予定です。

■問合せ先：NPO法人 かぬま市民サポーターズ

・住所：〒322-0054 栃木県鹿沼市下横町1302 まちなか交流プラザ1F

・電話：0289-60-2212（青田）

## 地域リーダー育成事業

NPO法人おおきな木 × 日光市



ワークショップの様子

### 事業目的

活気ある地域を実現するため、コミュニティ活動の担い手となる地域リーダーを育成することは、日光市の大きな課題です。この課題に対し、NPO 法人おおきな木と日光市を中心にプラットフォームを構成し、協議検討を重ねました。本事業は、日光市の地域資源に触れ、改めて地域の良さや課題を見つめ直す機会をつくり、日光市における様々な地域課題に対し、仲間と共に解決に向けて取り組むきっかけづくりを目的としました。

### 実施までの経緯

当市においては、市民活動支援センターを拠点として市民活動を進めていますが、各団体とも後継者の確保が難しいという課題があります。市民活動団体等の人材を確保するた

#### ■実施期間

平成24年11月～平成25年3月

#### ■事業費：1,266千円

#### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

NPO法人おおきな木、（社福）日光市社会福祉協議会、傾聴ボランティアチームありのまま、NPO法人ウエーブ、宇都宮大学、日光市（総合政策課）

めには、新しい人材の掘り起こしが必要であり、地域貢献したいと思っている方の思いを実践につなぐ機会として、「日光創新塾」を実施することになりました。

### 具体的な事業内容

第1回は、「身近なモノに目を向けよう 日光市の地域資源を探ろう！」をテーマに講義と事例紹介を行い、ワークショップでは日光市における地域資源を再確認しました。第2回では、「実践者に会おう旅 in 茂木」をテーマに地域活性化の取組を実践者に伺い、ワークショップにおいて、日光のためにできることを考えました。第3回では、「地域の課題をアイデアに」をテーマに講義とワークショップを行いました。ワークショップでは、日光市の課題「観光」、「居場所」、「雇用」、「地域福祉」の4テーマについて課題解決のアイ

ディアを考えましたが、各グループから多くの具体的なアイデアが発表されました。

## 事業を進める上での工夫

【運営】会議体の進行を円滑にするため、コーディネーター役を置きました。

### 【事業】

- 講演会、グループワーク、ワールドカフェ、現地訪問など様々な手法を活用することで、相乗効果を期待しました。具体的には、コミュニケーション技法を学び、ワークショップで参加者同士が思いを語り合う機会を毎回設定したことで、参加者同士の交流が深まり、仲間づくりにつながりました。
- 対象者の絞込みをせず、幅広い層から参加を募りました。宇都宮大学の学生には、役割を持って参加してもらったことで、若者の力やアイデアの発揮が、雰囲気づくりの一助を担い、世代間交流の機会にもなりました。
- 広く日光市民からの参加を募るため、事業の広報媒体としてチラシの全戸配布（日光市内）を実施しました。その結果、会場となる日光市民活動支援センターに訪れたことがない方の参加も多く得られました。日頃接点のない方々の「地域に貢献したい」との思いや地域のことを真剣に考えている熱い思いに触れることが

でき人材発掘につながりました。

## 事業の成果と活用

プラットフォームの構成員は、市民活動支援センターの利用団体、社会福祉協議会から選出したことでネットワークの強化につながりました。また検討会では、積極的な意見が出るなど参加意識が高い会議体となりました。

実施事業は、当初、日光市の実情（高齢化）を考慮し、高齢者を対象としたリーダー育成を意識しましたが、幅広い年齢層を対象とすることに転換した結果、受講者にとっては、それぞれの得意分野を活かし、さらに世代間交流を深め、課題解決への仲間づくりの機会にもつながりました。全3回のワークショップ等を通して、日光市の課題を明確化し、最終の課題解決アイデアについては、実行可能性の高い具体的なアイデアが提案され、自分の住む地域を自分達で変えるという意識の向上に寄与できました。今後はさらに、実践につながるような機会をつくっていく予定です。参加者のモチベーションを維持し、具体的な活動へと結びつけていくための研修や情報交換の機会を定期的につくり、継続的にフォローアップを行います。「地域リーダー育成事業」を継続事業とし、更なる人材ネットワークの拡充、人材バンクへの展開、拡大、様々な活動の場の提供といった可能性を検討し、地域活性化を目指します。

### ■問合せ先：日光市地域振興課

- ・住所：〒321-1292 栃木県日光市今市本町1
- ・電話：0288-21-5147

# 小山っ子元気づくり事業

おやまフットボールクラブ × 小山市



サッカー教室の様子①

## 事業目的

サッカー教室を通じて、参加する子どもたちにスポーツの楽しさを学ぶ場づくりを行いました。また、指導協力に学生の参加を得て、学生自らに世代間交流、コミュニケーション、ボランティア体験、指導方法等様々な体験をしてもらうことで、次世代を担う人材育成に努めました。

さらには、地域活動推進のきっかけづくりとして、沢山のひととふれあい交流する場づくりとなる事業を行う事を目的としました。

## 実施までの経緯

スポーツに興味はあるが、きっかけがない子どもたちのために、人気スポーツであるサッカーを通じて、スポーツの楽しさを体験してもらい、心身共に元気にしたいとの思いか

### ■実施期間

平成24年9月～平成25年3月

### ■事業費：1,221千円

### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

おやまフットボールクラブ、白鷗大学、小山南高等学校、間々田中学校、羽川西小学校（校長会代表）、乙女小学校、せいほう幼稚園（市内幼稚園代表）、さくら保育園（市内保育所・園代表）、青木スポーツ、小山市（こども課、生涯学習課、市民生活課、間々田公民館）

らスタートしました。

## 具体的な事業内容

おやまフットボールクラブを中心にプラットフォームを構成し、小山の子どもたちを元気にするための事業を検討し、おやまフットボールクラブへの委託等によりサッカー教室を実施しました。

1. 4～6歳の部サッカー教室（計3回）
2. 小学校1～3年生の部サッカー教室（計3回）
3. 小学校4～6年生の部サッカー教室（計36回）
4. 小山っ子元気づくり・サッカーまつり

サッカー教室の締めくくりとして、3月24日、小山南高校グラウンドにて「小山っ子元気づくり・サッカーまつり」を開催しました。白鷗大学の学生や小山南高校、間々田中学校、

乙女中学校の生徒らの協力のもと、約70人の子どもたちとたくさんの来場者があり、祭りは大いに盛り上がりました。

## 事業を進める上での工夫

一つの競技を通じて、多くの人々が集い、つながりが生まれるように努めました。また会議では、必ず全員から意見を聞き、欠席者にも必ず報告書を送付し、全員が共通認識を持つようにしました。事業実施にあたっては、自主性にまかせて、それぞれ自分ができることをアイデアとして出しあい、一つにまとめ上げました。



サッカー教室の様子②

## 事業の成果と活用

参加した子どもたちは、初めて会った子同士でも、サッカーという一つの競技を通じて、コミュニケーションをとることができました。また、高校生や大学生と一緒に遊んでくれる他には無い教室として大変喜ばれ、スポーツ

の楽しさや、仲間づくり等の面でも良い体験の場となりました。指導のサポートをしてくれた高校生や大学生にとっても、子どもや保護者との交流を通じて、指導の難しさや、コミュニケーションの方法など様々な経験をすることができました。これにより、幅広い年齢の子どもたちを心身共に明るく元気にすることができました。

最終日には、幼児、小学生、中学生、高校生、大学生、保護者等が合同でチームをつくりサッカーイベントを開催しました。地元住民ボランティアや企業にもご協力いただき、多世代間交流、多様な団体との交流が図られました。

今後の発展としては、大きな目標は「子どもたちの元気づくり」ですが、その達成のための具体的な目標を決めて事業を展開していきたいと思います。そうすることで、会議参加者が共通認識を持つことができ、意見も活発化し、様々なアイデアを引き出せると考えます。

今後、おやまフットボールクラブは NPO 法人設立を目指し、プラットフォームでつながった方々と協力しながら、事業を展開して行く予定です。

■問合せ先：小山市市民生活課

・住所：〒323-0025 栃木県小山市城山町3-7-5

・電話：0285-20-5561

# もうひとつの楽校づくり事業

野木町未来プロジェクト実行委員会 × 野木町



演劇公演の様子

## 事業目的

野木町の様々な魅力に着目し、子どもたちとともに地域文化を学びあい、様々な表現方法で「野木町」の魅力を発信することを目的にしました。子どもの自発性や創造性、発想を活かしながら、世代をこえた仲間意識を育てるために、「キラリ子ども未来塾」において、地域の大人から高校生・大学生とふれあい、学校では学習しないことにチャレンジする「もうひとつの楽校づくり」を目指しました。

## 実施までの経緯

東北地方での東日本大震災による「ふるさと喪失」を目の当たりにし、同じような想定外の事態に野木町が遭遇したとき、野木町を未来に伝えていくことができるのかと考えました。

### ■実施期間

平成23年9月～平成24年3月

### ■事業費：1,300千円

### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

野木町未来プロジェクト実行委員会、新橋小学校PTA、白鷗大学、未来創造ネットワーク白鷗、絵本の会、野木中学校PTA、古河市文化協会、スマイルタッチケア協会、NPO法人栃木おやこ劇場、野木町ボランティア支援センターきらり館、南赤塚小学校ボランティア、シニアリーダーズクラブ、青年劇場、野木町（生活環境課）

私たちは「子ども＝未来」と位置づけ、その子どもたちに、地域の大人や大学生とのふれあいなどの学校では学べない楽しい体験をしてもらうことで、地域の文化・伝統や野木町に生まれた誇りを継承してもらうため「もうひとつの楽校づくり」を町と協働で企画しました。野木町にできた「ボランティア支援センター『きらり館』」を拠点に「キラリ子ども未来塾」を開校しました。チラシを作成し、地域の学校や関係機関に配布したところ、予想以上の塾生の参加を得ることができました。

## 具体的な事業内容

野木町未来プロジェクト実行委員会と野木町を中心に、プラットフォームを構成し、子どもから大学生、シニア世代まで幅広い世代が文化・芸術活動を通して地域文化を発掘し創造する活動をしました。主な活動内容につ

いては、演劇公演に向けての練習、大学生などの異世代との交流、キャンプなどを通じた自然体験、地元を知るための観光看板作り、イベントでの駄菓子屋出店などを実施しました。また、若い世代の文化芸術活動を支援し、文化によるまちづくりを推進するネットワークづくりを進めるため、演劇講座や子どもの創作による演劇公演、公開報告会、「キラリ子ども未来塾」パフォーマンス講座を企画し実施しました。

## 事業を進める上での工夫

大人だけではフェスティバルやイベントでなんとなく成功したとの錯覚で、1回で終わりがちです。そこで、私たちは地道な作戦をとることにしました。例えば、「観光看板作り」では、子どもたちに町のキャラクターを描いてもらい、友だちや家族に「ひまわりフェスティバルにぼくの描いた看板があるよ」と話すとロコミで広がり、子どもたちも自慢気に野木町の説明ができます。また、表現力の向上を目指し「演劇」という手法を取り入れ、地元的话题を織り交ぜて、野木町について「自信」をつけさせます。発表の場を多く設け、友だち、家族など身近な人たちを少しずつ巻き込む事が大事だと考え実践しました。

## 事業の成果と活用

「もうひとつの楽校づくり」を目指して開

校した「キラリ子ども未来塾」に集まった子どもやその保護者の皆さんは、創作による演劇を体験しながら、地域の大人や高校生・大学生たちとふれあうことで、仲間づくり、親子の絆、地域とのつながりを深めることができました。また、演劇公演を通じ、野木町のこれからのまちづくりのあり方や人と交流する街・つながりを作り出す場の大切さを、多くの方々に伝えることができ、町の活性化が図られました。

今後も子どもたちを中心に、若者の発想を活かした野木町らしい文化や歴史・伝統を学びあうなど、野木町の未来を考える機会を提供し、広く発信していきたいと思ひます。

さらには、野木町で活動している他のボランティア団体と一緒に活動する機会を得たことで、自分たちの活動領域が大きくなってきたので、今後も多くのボランティア団体、学校などと連携して、どんな子どもたちもいきいきできる居場所を広げていきたいと考えています。

■問合せ先：野木町未来プロジェクト実行委員会

・住所：〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571（野木町役場生活環境課）

・電話：0280-57-4132

# 高校生アイデア会議

NPO法人かぬま市民活動サポーターズ × 鹿沼市



アイデア会議の様子

## 事業目的

市内4高校の協力のもと、鹿沼市自治基本条例の「子どもの参加」に基づき、高校生を対象としたまちづくりアイデア会議を開催しました。企画立案から事業実施までを高校生と市民・行政の協働で実施することにより、高校生のまちづくりへの参加と将来の担い手育成を目的としました。

## 実施までの経緯

子どもたちの社会参加の機会及び自由に活動できる場が少なく、自分たちで企画立案し事業を実施する機会もほとんどない現状を解決するため、高校生を対象に、自由な発想やアイデアを活かし、事業に結び付けたいとの思いがありました。そのため、高校の校長先生にまず企画を説明し、その校長先生が他の3校へかけあってくれて、本事業の実施に

### ■実施期間

平成24年6月～平成25年3月

### ■事業費：1,390千円

### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

レストランアンリロ、ヤオハンフードセンター、ヘッドクリエーション(株)、鹿沼市観光物産協会、NPO法人CCV、WAKEISHI、(株)マチツクリ・ラボラトリー、鹿沼高校、鹿沼東高校、鹿沼南高校、鹿沼商工高校、NPO法人かぬま市民活動サポーターズ、鹿沼市（企画課、生涯学習課、市民活動支援課）

つながりました。

## 具体的な事業内容

「かぬま市民活動広場ふらっと」を会場に市内4高校の生徒27名によるまちづくりアイデア会議を開催しました。その後、同会議の提案に基づき、テーマ別に高校生を4チームに編成し、事業者、NPO等、大人たち等によるサポート体制のもと、企画立案から事業実施までを高校生自らが行ないました。

### 1. 高校生アイデア会議

#### ① 高校生間の交流イベント「4校 Competition」の開催

高校生同士のディベート、クイズ大会、芸術作品展示、バンド演奏、書道パフォーマンスを行いました。

#### ② フリーペーパーの作成

まちなかの情報や高校生の口コミ情報をまとめた情報誌を作成し、「全国まち変サミット」

等のイベントで配布、地域情報のPRを行いました。情報誌のデザイン・取材・編集は、高校生自らが行いました。

### ③ 地元食材の新メニューづくり

地元のおいしい食材を活用した新メニュー「ニラのジェノベーゼソース」を市内のレストラン「アンリロ」と共同開発し、市内スーパー「ヤオハンフードセンター」の協力により「ニラジェノベーゼチキンステーキ」として商品化しました。同商品の売上代金の一部は同事業の活動資金に還元する仕組みになっています。今後は、地場野菜の「鹿沼菜」を使用したパスタやラスク等の新メニューの開発やトマトジェラートの商品開発をしていく予定です。

### ④ キャラクターの活用

地味な鹿沼らしいキャラクターとして考案した「Jimiiiiii」をプリントしたTシャツを作成し、イベントで着用して活動のPRを行いました。今後は、缶バッジ等のグッズを作成して販売し、活動資金に充てていくほか、地元の民話の研究などを検討してく予定です。

### ⑤ まちづくりイベントの参加

- ・ かぬま全国まち変サミット
- ・ かぬま市民協働まつり

## 2. アイディア事業のサポート

市内の事業者、NPO、行政等の市民によるサポート体制を整えました。プロからのアドバイス等、大人と関わることにより、参加者

が将来の担い手として参加または戻ってくるきっかけとなります。

## 事業を進める上での工夫

会議運営にあたっては、大人はあくまでもサポート役に徹し、高校生たちが中心に会議を進めて行けるよう、また自由な発想やアイデアを活かせるよう会議を進行しました。メンバー同士交流を深められるように、お茶会やバーベキュー会等の行事を取り入れました。また、学校とは会議開催の連絡や事業実施の報告、また、学生の状況などの連絡を密に行いました。

## 事業の成果と活用

本事業実施により、今まで関わることでできなかった市内の高校と関わりを持つことができました。また4校の学生同士のつながりも生まれました。本事業は市の初めての取組であり試行錯誤の連続でした。高校生の自主的な活動の運営能力や、サポート役である大人の関わり方などに今後の検討課題がありますが、高校生が求めている活動のあり方や、将来の地域の担い手育成に地元の大人が関わる際の方向性が明確になりました。

本事業は名称を「高校生まち変プロジェクト会議」と改め、新たな高校生のメンバーを加えて、新たな組織により今年度も継続する予定です。

■問合せ先：NPO法人かぬま市民活動サポーターズ

・住所：〒322-0051 栃木県鹿沼市下横町1302 まちなか交流プラザ1F

・電話：0289-60-2212

# 男女の出会いの場創設事業

やいた未来クラブ × 矢板市



婚活イベントのチラシ

## 事業目的

本事業は矢板市の大きな問題でもある少子化現象に歯止めをかけ、男女の良好なパートナーシップを築くために、独身男女の出会いの場を創設し、結婚しやすい環境づくり等の支援活動を行うことを目的としました。

## 実施までの経緯

地域の課題である「少子化対策」、「後継者不足」、「次世代育成」等に対応するため、独身男女の出会いの場を創設し、地域で結婚しやすい環境を築くこと、地域を活性化すること等を目的に「やいた未来クラブ」が発足しました。今まで、サポーターが個人ごとに活動していたものを組織化することにより、情報の共有化ができ、効率的に事業が展開できるというメリットがあります。しかし、問題

### ■実施期間

平成23年11月～平成25年3月

### ■事業費：1,542千円

### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

やいた未来クラブ、矢板市商工会、(有)リクエスト、民生委員協議会、矢板市（子ども課）

点としては、発足したばかりのボランティア団体なので知名度が低いこと、事業を実施していることを広く周知する情報発信力が弱いこと、財政が脆弱なため、各種イベント等を行うための財政支援が必要であることなどが挙げられました。

## 具体的な事業内容

やいた未来クラブと矢板市を中心に、プラットフォームを構成し、良好な男女のパートナーシップを築くために、独身男女の出会いの場創設、結婚しやすい環境づくりに向けた支援を行いました。主にやいた未来クラブが主体となり、お見合いパーティー（出会いの場）イベントや婚活したい人を対象としたセミナー（男女のふれあい交流）の開催、会員登録やイベント情報発信を行うためのホームページの作成（情報システム構築）、毎月結婚

相談と情報交換を開催するなど様々な取組を行いました。

## 事業を進める上での工夫

この事業を進める上でまず力を入れたことは、協働事業内容の周知やクラブの情報発信力を高めることでした。人と人を繋ぐ仕組みを作るにあたり、地域においてクラブやサポーターの信頼度・認知度を高める必要がありました。そのために、市の広報紙を活用した情報発信のほか、クラブのホームページを新たに構築し、事業の概要やイベントの告知などの情報を積極的に発信していきました。また、やいた未来クラブのサポーターはとちぎ未来クラブのサポーターを兼ねていることから、お互いのイベントについて周知広報などの面で連携を図りました。

## 事業の成果と活用

矢板市の大きな課題でもある「少子高齢化」「後継者問題」等に対応するため、市民が自主的に立ち上げた「やいた未来クラブ」は当時 23 人の会員で発足しましたが、現在 28 人となり、月 1 回の情報交換会や月 2 回の結婚相談等地道な活動を行っています。

24 年度は、婚活イベント（3回）と男性向けの婚活セミナー（コミュニケーション・マナー講座）を開催し、参加者は合計 100 人を超えました。イベントの開催をチラシや

ホームページなどで広く周知することで、併せて「やいた未来クラブ」という団体の PR も図ることができ、地域での認知度も上がりました。婚活に参加したいと思う方が気軽に安心して申し込める雰囲気醸成するという意味では大きな成果がありました。しかし、婚活イベントは参加者には概ね好評でしたが、課題として、そこから先につながりにくいという現状があります。今後は、一過性につながりに終わらせないための方策、アフターケアについて、サポーターと共に検討していく必要があります。さらに、他のボランティア団体や企業との連携なども視野に入れ、効率的な事業展開を目指していきたいと考えています。

今回、市とクラブが協働事業を実施したことにより、効率的な事業の運営や団体育成等という一定の成果が挙げられました。近隣からの視察や先進地としての事例発表など、活動範囲は市内に留まらず、ネットワークも市内外に広がりつつあります。今後の展望については、やいた未来クラブが自立した団体として、これからも活動できるよう、市としては役割を分担しつつ、継続性のある取組を目指していきたいと考えています。

■問合せ先：やいた未来クラブ（社会福祉法人 矢板市社会福祉協議会内）

・所在地：〒329-2161 栃木県矢板市扇町2-4-19

・電話：0287-44-3000

## e (い〜) 出会いづくり in SAKURA NPO法人氏家まちづくりActive × さくら市



若者の出会い創出イベントの様子

### 事業目的

若者同士の出会いの場を創出することにより、さくら市商業集積施設であるeプラザの利用促進、中心街であるJR氏家駅前の賑わい創出に寄与することを目的とします。

### 実施までの経緯

さくら市も他の地方都市の現状にもれず郊外大型店舗の進出等により、市内JR氏家駅前を中心とする昔からの中心街への客足は減少の一途をたどっています。そのような状況下でシャッター通りとなりつつある中心街でも世代交代をした若い経営者が魅力的な店舗づくりをしながら賑わい創出をめざして日々頑張っています。そのような若い経営者たちが、NPO法人氏家まちづくりActiveを組織し中心街の賑わい創出のきっかけにと始めたのが8月開催の「納涼彩」や年明け2〜3月

#### ■実施期間

平成24年11月〜平成25年3月

#### ■事業費：1,170千円

#### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

NPO法人氏家まちづくりActive、氏家商工会、喜連川商工会、(株)エフエム栃木、さくら市（商工観光課）

開催の「氏家雛めぐり」です。駅前施設を中心に開催しており、現在では、事業実施期間中は賑わいを創出できる定着した大きなイベントになりました。しかし、上記イベントでは年齢層が中高年層に偏ってしまうため、若者たちにターゲットを絞ったイベントを開催し、さらなる賑わい創出につなげたいということで、駅前にある市の商業集積施設eプラザを活用し、若者同士が集まるような事業を実施しました。

若者同士がコミュニケーションを図りやすい空間を演出することで、若者の出会いの場を創出することを目指しました。また会場をeプラザとすることで、今回の事業へ参加した若者がリピーターとなって同施設を訪れるきっかけとなれば、同施設の活用促進、PRにもつながり、中心街の賑わい創出に寄与できると考えました。

## 具体的な事業内容

同プラットフォームで実施した若者の出会いの場創出イベントは今回が初開催のため参加者が集まるか不安がありましたが、募集定員を超える応募があり、イベント当日は、男女各20名、計40人の若者が参加しました。参加者は「氏家雛めぐり」を楽しみながら、「アトリエソエタ」に移動し、手づくり指輪製作体験等を行いました。同イベントの運営は、開催経験豊富なスタッフが中心となり、市職員やNPOスタッフがお手伝いをするという形式をとったので、司会進行などもスムーズに進み、盛り上がりました。その結果、今回のイベントでは、20組のうち、7組14名のカップルが誕生しました。今回の参加者の多くが市外からの参加だったこともあり、イベント中にeプラザやその他の広報活動も行い、市の魅力を伝えることができました。また、会場を提供していただいた企業もお店のPRにもつながるなど、本事業はプラットフォーム×企業×若者の3者がWin×Win×Winでつながる事業となりました。

## 事業を進める上での工夫

当初は、eプラザ式番館及び参番館をイベント会場とする予定でしたが、同時期に開催する「氏家雛めぐり」で使用されるため、企業の店舗をイベント会場として利用すること

としました。そして、中心街の魅力を感じてもらうため、eプラザを起点に「氏家雛めぐり」を見学できるよう配慮しました。

イベントについては、過去に開催経験がある「㈱エフエム栃木」に協力を依頼しました。

## 事業の成果と活用

主催団体のNPO法人氏家まちづくりActiveも今回の事業について集客力や参加者の意欲に手応えを感じていました。また、商工会会員にも来年度の開催について興味を持っていただけました。来年度以降についても事業の継続についての要望があったので、市内NPOや商工会と連携し回数を増やす等の事業改善についても打合せを行っていきたいと思います。

今後は、若者の出会いの場の創出と併せて、落ち着いた雰囲気をもつ企業等を活用し、年齢層を上げたパーティーの企画も考えています。

■問合せ先：さくら市商工観光課

・住所：〒329-1492 栃木県さくら市喜連川4420-1

・電話：028-686-6627

# 壬力UP協働のまちづくり推進事業

ゆめみたい  
夢壬隊 × 壬生町



講演会の様子

## 事業目的

夢壬隊（ゆめみたい）と壬生町が中心となり、さらに多様な主体と連携し、まちおこしや被災者支援の事業を企画・実施することにより、ボランティア活動の促進、地域の活性化を図り、壬生を元気にし、壬力（みりよく＝壬生の魅力）を発信することを目的とします。

## 実施までの経緯

壬生町では、ボランティアへの参加を望む個人や企業が多く存在はしても、それぞれの連携がうまくいかなかったり、民間と行政の連携を図ることが難しいなど、住民の「やる気・意欲」が直接的に実施に結びつかないことがありました。そのような中、平成24年2月、壬生町商工会青年部の呼びかけにより、今までやりたいのにやれなかった人々が結集

### ■実施期間

平成24年9月～平成25年3月

### ■事業費：1,299千円

### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

夢壬隊、壬生町商工会青年部、壬生町文化協会、メリーランド保育園、壬生町（生活環境課）

し、岩手県陸前高田市で東日本大震災の被災者を支援するボランティア活動を実施し、被災者に喜んでいただくことができました。この経験から、ボランティアの素晴らしさを実感したことにより、町内でボランティアの気運が高まり、被災者支援と併せて、まちづくりの活動をしていくために、商工会青年部、農業関係青年部、その他個人のつながりの仲間や団体から約50名が集い、夢壬隊が組織されました。

## 具体的な事業内容

夢壬隊と町が中心となり、住民・企業・行政による「協働のまちづくり」を推進するため、多様な主体によるプラットフォームを構成し、各種まちおこしの事業や東日本大震災被災者支援を協働で実施することを通じて、ボランティア活動の促進、地域の活性化を図り、壬生を元気にし、壬力（みりよく＝壬生

の魅力)を発信しました。

### 1. 新たなご当地グルメ開発・普及事業

- グルメ試作会【参加者 100 名】
- グルメ練習会【参加者 11 名】
- 蘭学通りまつりイベント【参加者 20 名】
- 高野誠鮮氏による講演【参加者 350 名】
- 視察研修（小田原市）【参加者 12 名】

### 2. フィルムコミッションの立ち上げに向けた研究事業

フィルムコミッションの立ち上げをすることができたので、今後も継続的に研究等を実施することになりました。

## 事業を進める上での工夫

「地域の活性化」・「壬生を元気にする」というテーマが大きく、それを実現するための事業がたくさん出てきたために組織を細分化しました。グルメ部門、フィルムコミッション部門、ボランティア部門、音楽部門などに部門を分け、各部門に責任者を置き、部門ごとの自主的な取組を促しました。また、組織内での情報の共有を密にするために、SNS（フェイスブック）を使用し、事業に関する情報の即時発信、参加者取りまとめ、意見収集等に活用しました。

## 事業の成果と活用

ボランティア精神あふれる人材をまちづくりに活用する仕組みであり、先導性のある取

組といえます。また、職業の垣根を超えた、多彩なメンバーがそれぞれの得意分野を活かした提案や活動を実践することにより地域の活力向上を強力に推進できました。さらには、ボランティアやまちおこしに興味のある人材が自ら参加する組織であるため、継続性の期待できる取組です。

今回の県補助事業活用により実施した「高野誠鮮氏の講演」により、まちおこしのノウハウのヒントをいただけたことは、今後役に立てていけると期待できます。また、グルメ関係で「小田原どん」の展開の視察・聞き取りができ、壬生丼でのまちおこしを目指す上での参考となり、今後につながるものと確信しています。さらに、調理関係の小道具（フライパン・ボウル・ザル・包丁・まな板等）が揃ったことも、活動の継続に寄与するものと考えます。この事業により、様々な職業や経験を持つボランティア精神あふれる人材が結束することができ、新しいご当地グルメの開発やブランド確立に関する講演会、フィルムコミッション事業の展開など、壬力（みりょく＝壬生の魅力）を発信することができました。今後も継続して協働による活動を続け、ご当地のグルメPR等をしながら、地域の活性化を図り、壬力の向上と発信をしていく予定です。

### ■問合せ先：壬生町生活環境課

- 住 所：〒321-0227 栃木県下都賀郡壬生町通町12-22
- 電 話：0282-81-1888

## 協働のまちづくり普及啓発事業

那須塩原市協働のまちづくり推進協議会 × 那須塩原市



協議会で作成したリーフレット

### 事業目的

平成 23 年度に那須塩原市において「協働のまちづくり指針」が策定され、協働のまちづくりの推進に向けて新たな一歩が踏みだされましたが、市民への浸透度はまだまだ十分とは言えない状況にあります。この問題を解消するには、市民の意識を高めていく働きかけが必要です。そのため、協働のまちづくりへの理解を深めるための講演会や、協働をより身近にしていくためのリーフレットの作成及び全世帯への配布などの様々な活動により、市民自らが協働理念の発信・周知、そして浸透へとつなげ、市民との協働によるまちづくりの推進に寄与することを目的とします。

このような活動を実施することにより、本市での協働のまちづくりに対する市民の認知度や意識を向上させる一助となることが期待

### ■実施期間

平成24年6月～平成25年3月

### ■事業費：1,095千円

### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

学識経験者、自治会長連絡協議会、コミュニティ連絡協議会、NPO法人ひなた、ボランティア連絡協議会、狩野地区車座談議委員会、輝きネットなすしおばら、那須塩原市地域婦人会連絡協議会、(社福)那須塩原市社会福祉協議会、那須塩原市商工会、NPO法人塩原温泉観光協会、関東バイオエナジー(株)、ブリヂストン栃木工場、NPO法人アスク、NPO法人三区町地域資源・環境保全会、那須塩原市(市民協働推進課)

できます。

### 実施までの経緯

協働によるまちづくりを普及させるには、まず活動団体自らによるネットワーク化（組織化）が必要と考え、推進協議会の設立を行いました。その過程において、様々な議論を重ねた結果、まずは市全体に意識啓発を図ることが重要であるとの結論に至り、普及啓発事業を実施することとなりました。

### 具体的な事業内容

各種団体や那須塩原市を中心に、多様な主体によるプラットフォームを構成し、本市における協働のまちづくりの必要性や意義などの市民への理解と浸透を図るため、プラットフォームにおいて協働事業の協議・検討を重ね、企画をし、事業を実施しました。

## 1. 講演会の開催

- 「できることからひとつずつ！協働で大切な人・まちづくり」坂口正治氏
- 12月26日（日）参加者：150名



講演会の様子

2. 会報誌「協働のまちづくり推進協議会通信」の発行 配布先：市内全域班回覧
  3. リフレット「みんなでつくろう わたしたちのまち～協働のまちづくり～」の作成
- 部数（35,000部）
  - 配布先：全世帯、市民活動団体他

## 事業を進める上での工夫

協働のまちづくりについての市民への浸透度がまだまだ十分とは言えない状況にあることから、様々な角度から普及啓発の取組を行いました。

具体的には、協働の意義や仕組みなど概要についてのリーフレットを作成し全世帯への配布を実施しました。また、実践についての啓発を行うため、講演会での地元団体による

事例発表や団体の活動を紹介した会報誌の全世帯配布など身近な取組の紹介を行いました。

## 事業の成果と活用

協働のまちづくりに対する市民への意識を高め、理解を深めるための講演会を実施し、また協働をより身近にしていくためのリーフレットを作成し市内全世帯に配布することで、多くの市民に向けて認知度や意識を向上させる一助となったと思われます。しかしながら、協働のまちづくりについての市民への浸透度はまだまだ十分とは言えない状況にあり、問題解消のため今後も協働のまちづくりに対する市民への意識を高めていく働きかけが必要であると思われます。

今後は、啓発の取組を継続しながら、行政、団体、個人が相互に情報を共有し、協働の実践につながるようなしくみを検討していきます。具体的には、団体情報や活動の参考となる各種情報等を提供するためのホームページの開設、活動発表の場を提供し相互に集うことのできる団体交流会の実施を検討していきたいと考えています。

また、協働のまちづくりに関する調査研究を進め、市民や団体同士を繋ぐ団体登録制度の創設や市民活動支援センターのような様々な市民活動を支援する拠点となる場所の設置の必要性の有無についても検討していきたいと考えています。

■問合せ先：那須塩原市企画部市民協働推進課 協働のまちづくり室

・所在地：〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社108-2

・電話：0287-62-7151

# ボランティア活動促進事業

野木町ボランティア支援センター利用者協議会 × 野木町



ボランティア団体による活動発表の様子

## 事業目的

野木町では、現在、町民活動を行う団体は、個々に活動している状況であり、一方で個人や自治会活動の一環として地道に活動している町民が大勢います。そこで、いつでもだれもが情報を入手し、活動に参加しやすくするために、IT 機能の充実と情報をつなげる環境の整備を実施するとともに、情報の一元化とネットワーク化を図ることを目的としました。

## 実施までの経緯

野木町においては、町民がボランティア活動に参加したい意志がありながら、情報不足から実践につながらない状況が見られました。

平成 23 年 4 月に設立された当協議会は、ボランティア活動を促進するための情報収集・提供を事業の一つとしているので、情報

### ■実施期間

平成23年9月～平成25年3月

### ■事業費：1,300千円

### ■プラットフォーム構成機関（団体名等）

野木町ボランティア支援センター利用者協議会、傾聴野木、のぎパソコンクラブ、個人ボランティア、学校ボランティア、こんぺいとう（読み聞かせボランティア）、有さわやか、生涯学習ボランティア、NPO 法人ハートフルのぞみ会、花咲かせ隊、野木町ボランティア支援センター、野木町（生活環境課）

の受発信拠点としての機能を整備するため、平成 23 年 9 月、野木町と野木町ボランティア支援センター利用者協議会でプラットフォームを設置しました。

## 具体的な事業内容

野木町ボランティア支援センター利用者協議会と野木町を中心に、プラットフォームを構成し、ボランティア活動の促進を図るため、プラットフォームにおいて検討を重ね、協働事業を企画し、野木町ボランティア支援センター利用者協議会への助成により実施しました。

1. 情報提供の充実を図るためのホームページの充実（リニューアル）
2. ボランティア団体・個人等の資質向上のための利用者協議会対象パソコン教室の開催（計 8 回）

### 3. 情報提供の向上を図るための備品購入

情報提供の向上を図るために、パソコン、プロジェクター、スクリーン、デジカメを購入しました。

### 4. 関連事業の開催

関連事業として以下の事業を実施しました。

#### (1) 協働のまちづくり講座

協働のまちづくり講座を5回【第1回：協働のまちづくり入門／第2回：協働が育つプラットフォーム事例／第3回：人（若者）を呼び込むイベント事例／第4回：プロスポーツによる地域活性化事例／第5回：協働のまちづくりワークショップ】開催しました。

#### (2) ボランティア養成講座

#### (3) まちづくりシンポジウム in 歌声喫茶

野木町内のまちづくり団体による活動発表会として開催しました。

## 事業を進める上での工夫

情報の一元化とネットワークを図るためのIT機能の充実、協働の気運を高揚するための研修講座の開催、ボランティア団体・個人の育成、創出のための各種講座の開催に重点を置きました。これらの研修会には、町職員の参加を働きかけ、多数の参加者を得ることができました。

## 事業の成果と活用

IT機器（パソコン、会議室の無線LAN）

■問合せ先：野木町ボランティア支援センター利用者協議会

・住所：〒329-0101 栃木県下都賀郡野木町大字友沼4930-1 きらり館

・電話：0280-23-1231

の整備及びホームページ作成基盤を変更したことでデータの容量が増加しました。そのことにより、一度にホームページ上に掲載できる画像や情報誌の量が大幅に増加し、ホームページが充実しました。情報収集・発信が充実し、情報の一元化が図られ、多くの町民に活用されるようになりました。また、利用者協議会対象のパソコン教室の開催により、ボランティア団体・個人等の育成・創出に大変役立ちました。「きらり大楽院・地域デビュー講座」やゲストを招いての「きらり館トーク」など、各種講座の開催により、ボランティア団体・個人等の資質が向上し、協働のまちづくりに関する気運の高まりが見られました。また、「協働のまちづくり講座」は町民と町職員の合同で5回実施し、うち1回をワークショップ形式で行うことにより、協働による課題解決を目指すための方策への理解促進が図られました。今後は、ボランティア支援センターの他、公民館、学校、図書館、社会福祉協議会で活動しているボランティア団体・個人等の連携、情報提供等をさらに強化しネットワーク化を図ります。また、将来ボランティア支援センターを指定管理することを目的に、受託できる団体を育成していきたいと思えます。